



# 第328号

〈新入生特集号〉

2004年(平成16年)

4月7日

発行 明治大学  
 編集 明治大学広報部  
 TEL 03(3296)4083  
 E-mail:  
 koho@mics.meiji.ac.jp  
 東京都千代田区神田駿  
 河台1-1 (〒101-8301)

## 新入生に贈る言葉

# 自らの「個」を求めて

## 総長兼学長 納谷 廣美



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、これまでの生活に別れを告げ、将来に向けて新しい道を歩み始めました。その門出を心からお祝い申し上げます。そして皆さんは、123年余の輝かしい伝統を有する明治大学に既に在籍している学生や44万名といわれている校友との関係で大学生として仲間入りをした、そのことも併せてお祝い申し上げます。私も明治大学の教職員一同は、皆さんのこれからの学生生活が有意義で、かつ思い出の多い青春時代になるよう誠心誠意勤めさせていただきます。

ところで昨今、「人類の行先が不透明である」という警鐘の声を耳にします。何事につけ、その合理性や効率性を厳しく追求するとの風潮は、これを後押ししていると思えます。他方で戦争、テロ、環境破壊、さらには病気や飢餓に苦しむ人々の増大など深刻な諸問題が山積みされています。文化の衝突とか、民族の対立などの標語だけでは整理できないところがあります。むしろ、今大切なことは、共生の理念のもと、人そのものを中心に据えた視点、すなわち信頼・友情・人類愛、さらには慈悲の心など日頃われわれが忘れがちに陥っている人々の美しい心を思い出し、そこから人生の過し方を見直すことが必要な時期に入っていることと思えます。目先のことだけでなく、人類の犯した過去の出来事を忘れないうで下さい。古典や芸術などにみられる人間性そのものに訴える普遍的なものに触れて下さい。

明治大学中央図書館正面入口に掲げられているロダンの言葉「肝心な点は感動すること、愛すること、望むこと、身ぶるいすること、生きることです。」を、皆さんに贈りたいと思えます。

明治大学は、都心型大学です。大都會の雑踏の中で、時代の新しい息吹きを感じることが出来ます。大学は、専門的な知識を習得する場ではありますが、それにとどまらないで「自分の頭で考えたり、判断したりする」能力を開発する場でもあります。社会は、グローバル化・IT(情報技術)化の波が強まる中で質的な転換が求められている訳ですから、皆さんは、これからの20年後、いや30年後の社会においても十分に適応する能力・資質を、この明治大学で培ってください。自分で問題の所在を探索し、自分で考え、そして自分で新しい解決を見いだすことの大切さを心に刻んで学んでほしいと思えます。明治大学の建学精神「権利自由、独立自治」は、今こそ注目されるべきものです。「個を強くする大学」とのキャッチ・フレーズは、正しく右の理念を今風に表現したものといえます。個として強く生きる勇氣・自信の形成に努めて下さい。講義やゼミのみならず、スポーツやサークルなどの場をも通じて、教師や友人と語り合って、自らの進むべき道とそれがたとえ未知なるものであっても「前へ」の精神で、主体的に、自らの個を探索し、答えを見いだしてほしいと願っております。

最後になりますが、皆さんの将来が明るく、かつ平和なものであることを祈念いたします。

### 明治大学校歌

児玉花外 作詞  
 山田耕筈 作曲

一 白雲なびく駿河台

肩秀てたる若人が  
 撞くや時代の暁の鐘  
 文化の潮みちびきて

遂げし維新の業になふ  
 明治その名ぞ吾等が母校  
 明治その名ぞ吾等が母校

二 権利自由の揺籃の  
 歴史は古く今もなほ  
 強き光に輝けり  
 独立自治の旗幟し  
 高き理想の道を行く  
 我等が健児の意気をは知るや  
 我等が健児の意気をは知るや

三 霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき  
 我等に燃ゆる希望あり  
 いてや東亜の一角に  
 時代の夢を破るべく  
 正義の鐘を打ちて鳴らさむ  
 正義の鐘を打ちて鳴らさむ

# ようこそ明治大学へ 皆さんを心から祝福し歓迎します

## 充実した学生生活を

理事長 長吉 泉



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。  
いよいよ最高学府である大学での生活が始まることとなります。既にご存知の方も多いかと思いますが、わが明治大学は、1881年1月17日、法律学者であった岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操という3名の青年により、明治法律学校として、現在の有楽町に開設されました。  
偉人によらぬ3名の青年による開学は、「独立自治」「権利自由の精神」という理念の下、強い意志と意欲を持った学生を集め、今日に続く確固たる礎を築いてきました。この思いを継承した多くの先人達が学んだ本学に、みなさんもその一員として加わったわけです。  
異なる環境で、中には、国や世代をも越えて「過」してきた人々が、各地から、明治大学という場を共有し、同じ時を過ごす機会を得たこととなります。  
空海の言葉に「人の相知ること必ずしも対面して久しく語るのみにしも在らず」というものがあります。心さえ通ずれば、偶然知り合って、ほんの少し話しただけでも親しくなれるという意味です。みなさんは、単に偶然で知り合ったわけではなく、自身の意思で明治大学に入学されてきた仲間です。この学生生活が、価値観の共有できる、時に真っ向から意見をぶつけ合える、一生の友を得る場でもあって欲しいと願います。神宮球場や国立競技場で、肩を組み、校歌を歌う。大いにこの学生時代を、今しかできないことで謳歌

してください。  
一方で、社会全体が大きな転換期である現代において、大学において「学ぶべきこと」は、多岐に渡ってきています。すべてが自主的に自己責任の下で送られる学生生活においては、「学べる」という表現が正しいかと思えます。  
明治大学は、これまでの教育施設・設備に加えて、生涯教育やインキュベーションといった社会への貢献と互いの発展を目指し、みなさんが学ぶための施設・設備の充実を進めてきました。まさに「学べる環境」は整ったと言えます。  
これまでの教育課程とは異なり、各自が主体性を持ってカリキュラムを組み、深く究めることが可能であるのが大学であり、それこそが最高学府たる所以です。これら、みなさんに与えられた特権を、大いに行使してください。  
悠然たる時間が待ち受けているかのような印象さえ受ける学生生活ですが、実際のところ、瞬く間に過ぎ去ってしまうものです。新入生のみなさんには、このかけがえのない時間を、一瞬たりとも無駄にすることなく、濃く深く過ごされることを願います。  
成人であればもとより、成人でなくとも、大学生になることにより「大人」として扱われ、相応の立ち居振る舞いが求められます。本日より、そこに、是非「明」の一字を加え、「明大人」として、日々精進されることを期待し、お祝いの言葉といたします。

あたらしく大学院生になられた皆さん、ご入学おめでとうございます。大学院で勉強することを決意された皆さんを心から歓迎いたします。  
2004年度は大学院にとって、大きな節目の年にあたります。今年から、法務研究科(ロースクールの)が発足します。また、学部に基づいておかない研究科として、公共政策大学院「ガバナンス研究科」と、ビジネススクール「グローバル・ビジネス研究科」の二つの分野が新しくスタートを切ります。  
それに既存の法字研究科、商学研究科、政治経済学研究科、文学研究科、経営学研究科、理工学研究科、農学研究科の七つの研究科を加えますと、明治大学は都合、10部門に及ぶ研究科を擁することに なります。

これまで日本の社会は、大学が専門教育を行うことに必ずしも積極的でありませんでした。それよりも仕事に直結した専門知識は、企業が新卒の新入社員を対象に現場で教えるという方法によってきました。大学に期待されたのは、専門教育よりも一般的な知識が豊富なゼネラリストを生み出す教育であったといえます。  
ところが、時代は変わりました。グローバル化が急速に進む時代、ゼネラリストでは役に立たなくなってきました。リストラが話題になると、まず仕事を失うのは専門的な知識をもたないゼネラリストという世の中が変わってきています。

## 明治大学大学院の これまでとこれから

大学院長 中邨 章



大学院教育は、そうした社会の変化に対応しなければなりません。明治大学の大学院は研究者を養成するために必要とされる様々なカリキュラムを組んでいます。また、高度な知識をもった職業人を育てるための講座を多数、そろえています。大学院生の研究活動を安定させるため、リサーチ・アシスタントやティーチング・アシスタント制度も整備しました。  
これから皆さんのご研鑽を期待するばかりです。すばらしい成果を挙げられることを祈念してまいります。

諸君らは、将来、法曹人になることを目指して、法科大学院に入学されたものと思います。その意味で、法科大学院への入学の目標は明確であり、その目標に向かって勉学に励むよう期待しますし、教職員一同それを支援します。

そのためには、まず法科大学院修了後の新司法試験に合格しなければなりません。諸君らは入学時から覚悟のことと思います。法科大学院でも、そのことを視野にいれた法曹養成教育を展開します。

ただ、重要なことは、法科大学院は新司法試験受験のための予備校でないことを肝に銘じて学んで欲しいと思います。

法科大学院は、かつてのような一発試験で始まる法曹養成では21世紀を担う法曹人の量と質を確保することができないという国家的反省から出発しています。それは、全国統一のいわゆるLSAT試験で法曹人となり得る素質をみただで、各法科大学院の創意と工夫による法理論と法実務の架橋教育を受け、その教育の

諸君らは、将来、法曹人になることを目指して、法科大学院に入学されたものと思います。その意味で、法科大学院への入学の目標は明確であり、その目標に向かって勉学に励むよう期待しますし、教職員一同それを支援します。

そのためには、まず法科大学院修了後の新司法試験に合格しなければなりません。諸君らは入学時から覚悟のことと思います。法科大学院でも、そのことを視野にいれた法曹養成教育を展開します。

ただ、重要なことは、法科大学院は新司法試験受験のための予備校でないことを肝に銘じて学んで欲しいと思います。

法科大学院は、かつてのような一発試験で始まる法曹養成では21世紀を担う法曹人の量と質を確保することができないという国家的反省から出発しています。それは、全国統一のいわゆるLSAT試験で法曹人となり得る素質をみただで、各法科大学院の創意と工夫による法理論と法実務の架橋教育を受け、その教育の

## プロセス「法曹養成」への積極的参加を

法科大学院長 伊藤 進



諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

成果を試すために新司法試験が行われ、これに合格した者につきさらに司法研修所において法曹実務教育を行うという「プロセス」による法曹養成の中核になっているのが法科大学院教育であるからです。

この意味で、諸君らは法科大学院への入学によって、既に、この世界を拡張してような「プロセス」による法曹養成の過程のなかに位置していることの自覚を持つてもらいたいと思います。

もう既に、法曹養成教育は始まっているのであり、新司法試験はその成果を試すにすぎないものなのです。このことから大切なのは、諸君らは法科大学院における教育に全力を投じて参画することです。

法科大学院は「教える」ところではなく、自覚を促すところがあります。諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

諸君が自らやらなければ新しい司法試験に合格するためには、法的に積極的に法曹となるために必要な「もの」を学んでいくのを「手助け」するだけです。

## 可能性のなかへ

法学部長 土屋 恵一郎



環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

環境に入ることは、自分のなかにあった可能性に気づくことでもあります。法律を学ぶというもののなかに、どんなあなたの可能性があるのかを、これからの4年間大学生活のなかで具体的に知ることができる。そして、法律が、いかに多様な文化と変化する社会のうちに生きていく存在であるかを知ることもできる。

## 幅広い視点から柔軟な発想と行動を

商学部長 鈴木 義夫



乱に陥れるほど、大きな財政的、政治的そして社会的な力をもっているのです。電子マネーが神以上の存在になったとさえいえるものもいるくらいです。

市場とそこにおける交換の仕組みを研究し、その成果の学習を目的としている商学部では、こうした新しい形態の取引に関するカリキュラムも用意されており、それを学ぶ際に重要なことは、われわれのまわりでい

乱に陥れるほど、大きな財政的、政治的そして社会的な力をもっているのです。電子マネーが神以上の存在になったとさえいえるものもいるくらいです。

市場とそこにおける交換の仕組みを研究し、その成果の学習を目的としている商学部では、こうした新しい形態の取引に関するカリキュラムも用意されており、それを学ぶ際に重要なことは、われわれのまわりでい

乱に陥れるほど、大きな財政的、政治的そして社会的な力をもっているのです。電子マネーが神以上の存在になったとさえいえるものもいるくらいです。

市場とそこにおける交換の仕組みを研究し、その成果の学習を目的としている商学部では、こうした新しい形態の取引に関するカリキュラムも用意されており、それを学ぶ際に重要なことは、われわれのまわりでい

ご入学おめでとございます。おおきな可能性と希望とをもって政治経済学部に入学された皆さんを心より歓迎いたします。

さて、皆さんが入学し、これから4年間を過ごしてゆく大学とはどのような「場」でしょうか。「学びの場」であることは、言うまでもありません。と同時に、大学は人と人との「出会いの場」でもあります。

「出会い」が基本ですが、それだけではなく大学には様々な人と人の出会いの場が用意されています。大学がそれだけ多様な文化的・社会的な機能を備えた場として存在するということでもあります。

4年の間には様々な新しい出会いを経験することでしょう。そうした出会いのなかで、皆さんが他者とともに

交わり、そこから何を学びとるのかによって、それぞれの大学時代の意味が決まります。

このような大学での新しい出会いに、おおいに期待してもよいでしょう。また、われわれ教員としては、互いに切磋琢磨することで、それぞれが新しい自分自身を創造

待します。

してゆくことのできる、そうした友人達との出会いを期待したいところで。

その際、こうした大学での生活とこれまでの学校生活との違いについては十分にわきまえておく必要があります。様々なところで違いがでてきますが、その基本は皆さんがこれから

一人の大人として遇されてゆくということにありまます。ただし、そこには必ず責任がともないま

切です。甘えは許されません。そうしたなかで自分自身を鍛え上げ、自己実現をはかってゆく

と交流を通して、はじめて互いに高めあうことも可能になるのです。

これからの4年間、様々な経験が身になり人生のなかで最も自由で可能性に満ちた時を刻むであろう大学での4年間、この時間と空間を共有する仲間とともに、充実した学生生活を過ごされることを心から期待します。

新入生の皆さん、ご入学おめでとございます。すでに皆さんは、これまでも10数年前の幼稚園や保育園の入園式から始まって、その後も引き続き、小・中・高等学校といった具合に、何回かの入学式を体験してきていることでしょう。そして、

# 新たな「出会い」のなかで切磋琢磨を

## 政治経済学部長 飯田 和人



他人との付き合いにおいても、自分の責任をしっかりとわきまえていられることが大切で、甘えは許されません。そうしたなかで自分自身を鍛え上げ、自己実現をはかってゆくことと交流を通して、はじめて互いに高めあうことも可能になるのです。

このような大学での新しい出会いに、おおいに期待してもよいでしょう。また、われわれ教員としては、互いに切磋琢磨することで、それぞれが新しい自分自身を創造待します。

らす文学科、世界の諸地域を対象としつつ歴史的・地理的認識の深化に努める史学地理学科、現代における「心」の問題の探求を社会と個人双方の視点からさまざまな試みる心理社会学科という3学科に大別され、さらにその合計13の専攻・コースに分けられています。そのうち、

文学科の文芸メディア専攻は、この4月から第一回生を迎えることになった、文学部では最も新しい専攻です。

そこで、良い友達を得たり、良

動に専念したり、

教養や専門の勉強をしたり、技術を身に付け、仲間と討論をしたり、クラブ活動に専念したり、

若いときに何を考え、何をやるか、それが今後の自分の人生を決めてしまうものだ、というのが私の経験から得た印象です。そして、若い時には、若いときにやるべきことがある、というのも、もう一つの私の結論です。

明治大学に入学されて、今後、理工学部の学生として、どのような道に進むとしても、当面学ぶべきことは、少なくとも二つあります。理工の基礎をしっかり身に付けることです。理工学の分野は、積み重ねが効きますから、基礎が大事であるということですが、

# 初心を忘れずに

## 文学部長 原 道生



自分の得意は、何なのか(strength)、今、世の中は何を必要としているのか(needs)で進路を決めることも可能ですが、最も大事なことは、自分、

本当にやりたいことを、今、心に問うべき時です

# 本当にやりたいことを、今、心に問うべき時です

## 理工学部長 向 殿 政 男



二つ目は、幅広い教養を身に付けることです。教養に裏打ちされた倫理観と価値観を持った理工系の人材が各分野で不可欠になって来ている。理工系のことばでいえば、基本と現場を大事にするボトムアップ的な思考と、総合的に適切な目標を見出すトップダウン的思考とに対応します。その間を合理的に設計し、ものとして作り上げていく理工学的実践には、両者は必須だからです。

明治大学との縁が始まりました。母校という自分の人生最後まで続く縁です。この明治大学で、悔いのない学生生活を過ごされますよう期待しています。そして、私達教職員も、皆さんの期待に応えられるように努力を致します。

新入生の皆さんが、これから学ぶ農学の内容は、生物そのものを研究対象とし、そこに流れる生命の基本的な生理科学を学びます。さらに、これまでの生物学的な知見を整理統合して、生物資源の保存・生産・活用へと生物機能を再構築し、生物機能の強化と生産物の流通拡大による豊かな人間社会を築く農学です。

これからの農学は、細胞融合や遺伝子の組換えなど先端技術が導入され、生物生産に新展開が期待されています。すなわち有用な遺伝子を用いた生物から取り出し、それを植物細胞の遺伝子に組み込んで新しい性質の植物を作り出す技術です。

生物の基本的な単位は細胞です。細胞がどのようにして生きているかを調べれば、生物共通の基本的な知見が得られます。従って遺伝子DNAという化学物質によってしまえば、それがどの生物から由来したのか細胞内では区別ができません。ですから、自由な遺伝子DNA組換えが起こり、これまで不可能であった異種間交配の壁を越えることができるよう



## 夢のある分子農学を

農学部長 稲富 秀夫

になりました。新しい技法で生れた組換え植物を利用する農学は分子農学、又はDNA農学とも呼ばれています。この分子農学からまったく新しい視点に立った農業が生まれようとしています。

それは農作物を食糧だけとして考えるのではなく、食べるワケチンなど医療品も生産する工場として利用する計画です。生化学的な物質生産系として微生物を利用した発酵工場があります。私に同じように組換え植物を用いて生活に必要な有機物をつくらうというのが分子農学です。植物にはいろいろな利点があり、英語の授業は15〜30名程度を建設する場、高度の技術力と豊富な資本力を必要としますが、植物の栽培と収穫には水と太陽と土地があれば十分です。生産規模の変更といった複雑な問題も栽培面積を増減させるだけで簡単に対応することができます。従って、合目的な組換え植物さえ作出すれば、付加価値の高い農業が生まれる可能性があります。

生田で夢のある分子農学を学んで下さい。

経営学部へのご入学、おめでとうございます。経営学部教育の特徴を紹介しましょう。まず、その一つとして、ゼミナールがあります。ゼミナールはどの学部にもありますが、経営学部のゼミナールは全部のゼミナールが経営学部の専任教員によって行われているところに特徴があります。

## 経営学部教育の特徴

経営学部長 平井 克彦



インターシップ制度を導入しています。この制度は夏季休暇を利用して、学生に自分の専攻、将来のキャリアに関連する就業体験をさせようとする制度です。

IT革命の現代においてコンピュータ能力の向上から祝福し歓迎するために、基礎から応用に至るまで順を追って学ぶことができると多様な科目を用意しています。早期卒業制度を導入しています。この制度の適用によって、成績優秀者は3年間で卒業ができます。さらに、成績優秀者に3年終了時に大学院への飛び入学の組み合わせをすることができ、このことから情報コミュニケーション学部のカリキュラムは、従来の短縮課程における修業年限の短縮を容易にするため、また、学部と大学院の1年間を修了するのに役立ちます。

夏季休業期間を利用したジョブ・インターンシップ(International Business Program)という短期留学制度を実行しております。これは海外で経営学を学ぶせよというものです。

新入生の諸君、入学おめでとう。諸君は、120年余の伝統を有するわが明治大学が、実に半世紀ぶりに設置した空前の構想に基づく新学部・情報コミュニケーション学部の栄えある第一期生として入学されました。わが情報コミュニケーション学部の教職員一同は、

## 21世紀の課題に挑戦する新学部

情報コミュニケーション学部長 中村 義幸



見ない実にユニークな編成となっているからです。このことは、21世紀の最先端の情報学が、IT(情報技術)の開発や発展が社会に及ぼす正の影響を主として問題としてきた従来の視点に、負の側面をも加えて人間の相互理解を可能あるいは不可能としている社会の諸制度やそのメカニズムの解明を課題とする視点を加えつつあることを端的にカリキュラムに反映させた結果であり、学問的には、「情報コミュニケーション学」という新たな学問体系の構築に果敢に挑戦するわが明治大学の研究に対する姿勢が、実務教育的には、多様な進路に拓かれた多数の履修モデルや文部科学省から異なった3種類の教職資格課程の認可を得ることができたことに具体的

容易にするため、また、学部と大学院の1年間を修了するのに役立ちます。

従来の短縮課程における修業年限の短縮を容易にするため、また、学部と大学院の1年間を修了するのに役立ちます。

的に示されています。古今東西、人間生活の最も基本的な原理が「情報コミュニケーション」であることは疑いを入れません。教職員の指導のもと新学部で深く学び「人間」としての総合的な力を「法学、経済学などの社会科学系の21世紀の課題に挑戦しましょう。



▲▼ 情報収集は必要不可欠

大学の情報収集は、主にインフォメーション・ボードと掲示板で行われます。また、「Oh-o! Meiji」システム(<http://oh-o.meiji.ac.jp/>)も重要。毎日チェックしよう。



# 有意義な 学生生活を 過ごそう!



▲ 証明書自動発行機

在学証明書や学割証などの証明書は、学生証を使用してこの機械で発行されます。学生証は身分を証明するもの。常に携帯するとともにしっかりと管理しましょう。



▲ 大学スポーツ

毎年12月第1日曜日に行われる伝統のラグビー『明早戦』や春秋の六大学野球リーグ戦応援は最も“明大生”を実感するとき。校歌の合唱で“ひとつ”になろう。

▼ 学園祭

秋の学園祭は学生の一大イベント。和泉校舎では『明大祭』、生田校舎では『生明祭』が開催されます。明大生はじめ近隣の家族連れも多数来場し賑わいます。



## 「学園だより」は学生のための広報紙

『明治大学学園だより』には、明大生へのメッセージが詰まっています。行事や施設の案内、“明治”の歴史、掲示板にはない行事参加者の体験報告など情報満載。毎号愛読してください。毎月1回(原則15日、2・8・9月は休刊、年10回)発行しています。

また、みなさんのご意見もお待ちしております。取り上げてほしい企画などありましたら、明治大学広報部まで連絡してください。

☆駿河台校舎ラック設置場所

- リパティタワー
- 1階エスカレーター前・エレベーター前・
- 2階エスカレーター前・17階食堂前
- 中央図書館入口
- 12号館入口
- 学生会館入口

☆和泉校舎ラック設置場所

- 第一校舎入口ロビー

☆生田校舎ラック設置場所

- 中央校舎北入口
- 各学部カウンター
- 学生会館入口



明治大学広報部  
「学園だより編集担当」

電話：03-3296-4083  
メール：koho@mics.meiji.ac.jp  
Webでも公開中!!  
<http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/index.html>

## 新入生はターゲット！ 個人情報の管理は慎重に！

初めての一人暮らし、東京デビュー。でも、そんな皆さんを待ちうける罠にどうかご用心を。大学生に多いトラブルは、外国語スクールやパソコンスクールの解約、新聞勧誘、自己啓発セミナーや宗教まがい団体への加入、化粧品やエステティックサロンなど。

今日も駅前で声をかけられませんでしたか？

「アンケートをお願いします」「モニターになりませんか」「署名運動に協力をお願いします」本来の目的をかくして近づき、事務所に拘束して断れない状況で不当に高額な商品や実態のない会員サービスの契約をさせたり、過激な主張の政治団体やカルト的な擬似宗教団体に誘ったり。

うかつに住所・連絡先(電話・携帯番号・メールアドレス)などを記入しないこと。勢いや雰囲気圧に圧倒されてその場で契約をしないこと。きっぱり断ることが大事です。

### こんなとき、どうぞ学生相談室へ！

どの窓口をたずねればよいかわからないとき。大学生活にうまくなじめないとき。ゆううつ・不安なとき。不意打ちのような方法でさせられてしまった契約を解除したいとき等々ひとりで悩まないで困ったらどうぞ気軽に学生相談室へ！もちろん秘密は厳守です。

学生相談室は、問題解決のためあなたと一緒に考える一方、「出会いの場」を通して学生生活への適応の援助もめざしています。授業を離れての行事として、バドミントン、スクーパダイビング、農業体験など色々な催し物を企画予定しています。「学園だより」や掲示やホームページでお知らせしますのでぜひ参加してください。

### 青空相談会ふれあいトークに 来てみてください！

大学生活に関するこんなこと、あんなこと……  
わからないこと、知りたいこと、  
なんでもどうぞ。  
相談員の先生とお話しませんか！

### 新入生のためのキャンパスライフ Q and A

日時 4月12日(月)～16日(金) 12:00～13:30  
場所 和泉第一校舎2階学生相談室  
※問い合わせは各地区学生相談室まで

学生相談室

駿河台 学生会館2階  
電話03(3296)4216・4217  
和泉 第一校舎2階  
電話03(5300)1178  
生田 中央校舎2階  
電話044(934)7619